

投資事業評価調書（新規）

部課室名	港 湾 課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 芝原 平 (建設係長坪田 勝幸)	内線	4440 (4450)
------	-------	---------------------	--------------------------	----	----------------

事業種目	港湾事業	事業名	事業区間	総事業費	9.5億円
		津名港改修(防災安全対策)	志筑地区	内用地補償費	億円

所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
津名郡津名町生穂新島～大谷			H17	H17	H19

事業目的	事業内容
兵庫県地域防災計画に基づき、津名港志筑地区の既存岸壁の耐震改良を行い、災害に強い港湾づくりを目指す。また、広域防災拠点である淡路佐野運動公園への幹線緊急輸送路上にある津名大橋の耐震改良も合わせて行う。	<p>既存施設の耐震強化</p> <p>岸壁(-7.5m) 1バース L=130m</p> <p>橋梁 1橋 L=53.5m</p> <p>[負担割合 国4/10 県6/10]</p>

評価視点	評価結果の説明
(1)必要性 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 兵庫県地域防災計画においては、淡路地域の広域防災拠点として佐野運動公園が位置づけられており、その海上アクセスポイントとして津名港を位置づけている。 耐震強化岸壁は、災害時における災害応急活動に必要な物資、資機材、要員等の緊急輸送体制の整備のために必要である。 当該岸壁は、淡路地域で唯一、水深が-7.5mの岸壁であり、海上自衛隊の補給艦や海上保安庁の大型巡視船を使用して緊急物資の海上輸送が可能になるため、今回、整備を図るものである。 また、災害時、避難者等の収容施設として客船やフェリー等が使用できる。 広域防災拠点である淡路佐野運動公園への幹線緊急輸送路上にある津名大橋の耐震改良も合わせて行う。
(2)有効性・効率性 有効性 効率性	<ul style="list-style-type: none"> 地域外からの陸送ルートが2ルート（明石海峡大橋、鳴門大橋）のみである淡路地域の地理的条件から、地域内において震災時に損壊を免れることができる耐震強化岸壁を整備することにより、緊急輸送ルートの強化を図ることができ、県民生活の安定に寄与することができる。 震災後の復旧期間中の旅客・通常貨物等の輸送コスト増大を回避できる。 費用便益比 B/C = 1.7 津名港は淡路地域の中心部に位置するため立地条件において有利である。 <p>・「つくる」から「つかう」への観点から、新たな施設を整備するのではなく、既存施設を改良するもので、施設を有効に利用できるほか、コスト縮減できる。</p>
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> 既存の岸壁はそのまま使用し、背後地盤を硬化させ土圧を低減させることにより耐震強化を図る。そのため、岸壁撤去時に発生するコンクリート殻等の建設副産物や岸壁前面海域への水質汚濁等の発生も少なく、環境に与える負荷が小さい
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> 淡路地域においては耐震強化岸壁が整備されておらず、地域の安全・安心の確保のため、また地理的条件からも早急に整備する必要がある。